巻頭言

特集号「第4回研究発表会からの投稿」に寄せて

Introduction: Special Issue on “Contributions from the 4th Annual Meeting of The Institute of Life Cycle Assessment, Japan”

特集号幹事 伊坪徳宏

Associate Editor, *Journal of Life Cycle Assessment, Japan* Norihiro ITSUBO

国連ミレニアム開発目標では、「環境の持続性確保」のため、「温室効果ガス排出量の削減」、「生物多様性の損失速度の大幅な減速」、「安全な飲料水のアクセス率を増加」を緊急の課題として挙げた。しかし、2008年に発行された中間報告書によれば、温室効果ガスの排出量、絶滅危惧種の割合はともに増加しており、安全な飲用水を利用できる人の割合は改善したものの、いまだ約10億人が安全でない飲用水を利用しており、目標を達成するにはさらなる努力が必要であることが指摘された（United Nations 2008）。地球の持続可能性が希求される中、気候変動枠組条約、世界水フォーラム、生物多様性条約といった、国際的協調の下で地球規模の環境問題解決に向けた対策が注目される。いずれも、日本で開催された（気候変動枠組条約第三回締約国会議（1997）、第三回世界水フォーラム（2003））、もしくは、開催される（生物多様性条約第10回締約国会議（2009））こともあり、日本は環境分野で世界を牽引するべき立場にある。このような中で先日、鳩山首相が日本の最大の懸案事項であった温暖化対策の中期目標を「2020年までに温室効果ガス排出量を1990年比で25%削減」と定め、9月23日に国連気候サミットにおいて、この目標を高らかに世界に向けて公約として宣言する姿は今後の進展を期待させた。

さて、著者の方は今年は幸運にも国際会議に3回参加する機会を得た。5月にSETAC（環境毒物化学会@スウェーデン）、7月に国際産業連関分析学会（@ブラジル）、9月にLCM2009（ライフサイクルマネジメント国際会議@南アフリカ）に参加した。

SETACでは7つのセッションのうち3つがLCIAであった。特に水の消費による影響評価手法開発に関する検討が目立った。ウォーターフットプリントは国際規格化が開始されることが決まっており、今後ますます注目が高まるものと見られる。持続可能性や社会影響といった手法の概念や方法論に関する議論も継続して熱心に行われている。

国際産業連関分析学会は、ブラジルで開催されたこともあってか、BRICsや世界連結の産業連関分析の開発について検討した研究への関心が高かった。環境分野についても発表が多く、多国間の貿易を反映した産業連関法に基づく環境負荷原単位データベースの開発が期待されよう。

LCM国際会議はバイオ燃料、食品、エネルギー、廃棄物、水など特定のテーマに注目した事例研究の発表が全体の半分近くを占めていた。そのほかに、教育や政策・ガバナンスに関するセッションが新規に追加されていた。

LCAに関わる学会が増えている中、それぞれの学会に独自の特色が現れるようになってきた。日本LCA学会はどのような針路を辿るのだろう。今後の方向をしっかりと見届けたいと思う。

毎年開催されるLCA研究発表会は早くも第4回目を終えた。はじめての九州での開催であり、参加者数が確保されるか懸念されたが、これまでとほぼ同じ規模（口頭発表は150件、ポスター発表は74件、参加者331名）で行うことができた。いずれの会場も立ち見が出るほどの盛況ぶりであったが、そのなかでもカーボンフットプリントの関心の高さが特に目立った学会となった。

第2回研究会発表より行っている研究発表会からの投稿は、今回で3回目の試みとなる。前回と同様、各セッションの座長に特に優れた発表を推薦していただき、特集号への投稿を勧誘した。その結果、多くの投稿を得て、厳正な審査の結果、7件の論文が採択された。いずれも掲載に値するきわめて質の高い論文である。採用された投稿論文の多くは、農業、食品、カーボンフットプリントに関係するものが多い。カーボンフットプリントが日用品や食品を対象にすることが多いこと、工業製品を対象にすることが多かったLCAがいま農業や食品に注目されていることを改めて確認する機会となった。社会的関心の高いテーマを迅速に研究課題として着手することのできるLCA研究の機動力の高さをうかがうことができる。一方で、長期的に検討される研究課題や成果について発表等を聞く機会が少なくなったように思われる。SETACでも議論されるような、持続可能性評価、将来予測など、新領域を開拓するスケールの大きい研究課題が提案されることを期待したい。

第5回研究発表会は東京都市大学（旧武蔵工業大学）で開催する。特別セッションとしては、「社会資本のLCA」、「食品のLCA」、「環境教育」、「持続可能な消費」、「企業LCA/LCM」を取り上げた。社会の関心や疑問、ニーズに対してLCAで応える。このような社会の期待に近づけていく活動の場になることを願っている。